

環境学習みえ

2009年3月/ 三重県環境学習情報センター(四日市市桜町3684-11)年4回発行
表紙の人 / 大嶋 誠治さん(大嶋農園) 2009 No.36

春

特集 野菜作りと環境 地産地消と旬産旬消

- ・こどもエコクラブ
- ・センターニュース
- ・エコカフェがオープン
- ・今月の企画展示
- ・講座のご案内 ほか



特集

野菜作りと環境～地産地消と旬産旬消～

多品目化、施設園芸の増加、外国からの輸入の増加など、私たちと食べ物を取り巻く関係が大きく変わってきています。

その結果、季節を問わず同じメニューが食べられるようになりましたが、CO₂排出量が増えるなど、環境への影響も出てきています。

今回は、地元農家のお二人に、野菜作りを通じた「地産地消」や「旬産旬消」への想いを聞きました。

ち さん ち しょう

地産地消

地域生産地域消費の略。地元で作られた作物をその地域で消費することは、エネルギー消費の面からも良いとされています。

自分の行動範囲、
目の届く範囲を意識して、
余分なエネルギーを減らす。

森田 英治さん(もりた農園)





▶野菜作りの基本

森田さん「知らない人より知っている人に食べてほしい。近くに食べてくれる人を感じながら作りたい。遠くに運べば、それだけ運送費もかかるし、余分なエネルギーを使ってしまう。15年間スーパーに勤め、仕入れ担当や店長を経験して、ごく当り前にそう思うようになっていたんですよ。」



▶半径4キロの行動範囲

森田さんの朝は5時からすでに始まっています。その日、食べ頃になっている野菜だけを収穫して、お客様が食べるまでなるべく鮮度が落ちないように、鮮度保持フィルム袋に入れていきます。その日売的分だけを計画して栽培、収穫しているから、余ることも少ないのです。11時までは半径4キロ以内のファーマーズマーケットへ自ら届ける森田さん。日常の行動範囲であるこのエリアから出ることはありません。風力発電、太陽光発電機でエネルギーを作ります。こうやって、自らエネルギーを作り、消費することは、エネルギーも地産地消しているといえます。

▶お互いの顔が見える地産地消

お店で商品を並べていると、「ほうれん草はどうやって食べると美味しいの？」などと森田さんに声をかけてくれるお客さんも多いんですよ。

森田さん「生産者と消費者の顔が見えること。これこそが地産地消。お客さんのほうが、僕のことがよく見えているかもしれません。」



▶もりた農園のご紹介

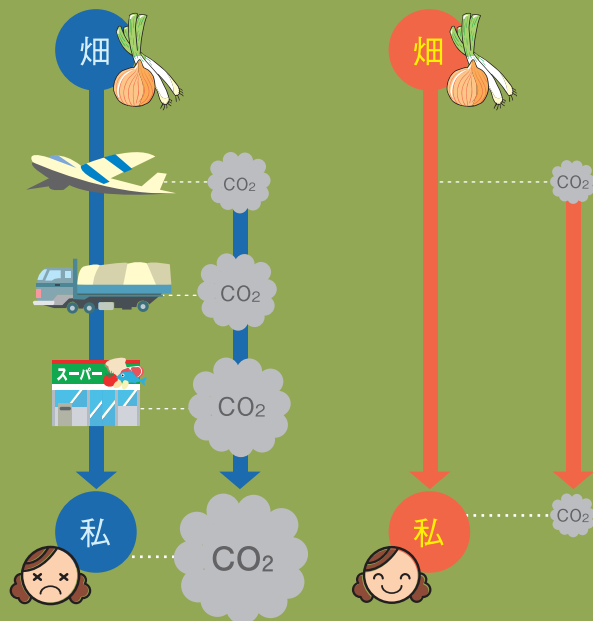
鈴鹿市のほぼ中心、周囲には水田が広がる「もりた農園」は、風力発電機が目印。小学生の通学路です。森田さん「子ども達が興味持ってくれたら嬉しいです。」ちなみに、もりた農園はビニールハウス栽培。でも重油エネルギーを使って室温を上げているわけではありません。虫よけ、雨よけ、作業効率を考えてのことなんです。



Point 1

地元産の食材を食べるメリット

森田さんのように太陽光発電機や風力発電機をつけて、というのは少し難しいかもしれませんが、例えば、地元産の野菜を選ぶことで輸送にかかるエネルギーを減らすことができます。食材の輸送距離が環境に影響するとしたこの考え方をフード・マイルージと呼びます。



しゅん さん しゅん しょう

旬産旬消

旬の食材は旬の時期に消費すること。旬は一番多くその野菜が収穫できるときだから、安い。しかも、美味しいし、栄養価が高いんです。

1度は本物の旬を味わってほしい。
本物を見る目と味覚を養うと、
人生楽しくなるんだ。

大嶋 誠治さん(大嶋農園)





▶余分なエネルギー

4月上旬に種をまいて8月上旬に収穫するネットメロンは、本来のメロンの作り方なので、余分なエネルギーを使っていません。しかし、「冬にもメロンが食べたい」といった消費者の声に合わせて、夏の収穫が自然なメロンを冬に収穫しようとすると、重油など多くのエネルギーを使ってしまうことになります。

▶収穫の時期

大嶋農園の夏の主役、とうもろこしは、糖度18度とかなり甘い。4月上旬に種まきをして7月上旬に収穫する自然のままの収穫方法です。しかし、この収穫時期を2週間早い6月下旬にするだけで（先行して販売したほうが高値がつく）、多くのエネルギーを使うことになるのです。大嶋さん「一番美味しいのは7月上旬じゃなくて、7月20日くらいなんだけどな。梅雨が明けて太陽が照ると、さらに甘味が出る。」



▶イチゴ1シーズンの収穫量

ほとんどエネルギーを使わずに露地でイチゴを作ると1.5トン。ビニールハウスで室内を暖めながら作ると6トンまで作ることができます。実に、4倍の収穫量。でもその分、生産投入エネルギーも何倍にもなっています。本来イチゴは、初夏が旬の果物ですが、冬のイメージが強いですよね。クリスマス、お雛様、イチゴフェアなど、イチゴが大量に消費されるのは冬なんです。

▶本物の旬を味わってほしい

大嶋さん「ドレッシングをかけて食べる野菜も美味しいけど、ひとつの季節に一度でいいから、野菜そのものの味を味わってほしい。野菜は食べて覚える。目で見て耳で聞くのも大切だけど、体験することが一番大切だと思う。畑で収穫したばかりのとうもろこしは、むいたままで、そのまま美味しいんだな、これが。」

環境負荷を減らすために私たちにできる事は？

「みえの安心食材認定制度」のシールがついている地元の野菜を選んだり、旬の食材を選ぶ等、毎日の生活に取り入れてみてはいかがでしょうか？そういった野菜を選ぶ事が地元農家を応援することになります。商品を買うということは、一票を入れることと同じ。環境を考えて野菜を作る地元農家の野菜を食べることが、環境を守ることに繋がります。



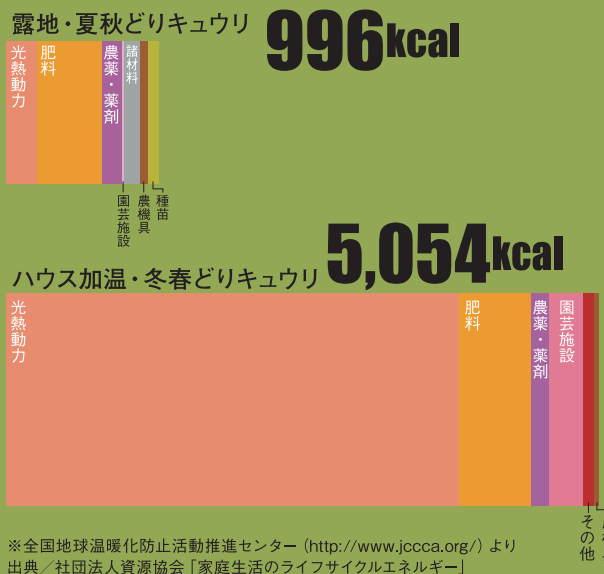
Point

2

旬の食材を食べることのメリット

四季を感じることができるし、昔から初物を食べると長生きすると言われるように、身体にもいいんです。トマト、キュウリはいつでもスーパーに売っているし、コンビニのお弁当にはいつもノンジンが入っています。まずは、これが「少し変かも？」と思うことが大切かもしれません。

キュウリ1kgあたりの生産投入エネルギー量の内訳



みえの安心食材認定制度とは？



地産地消ネットワークみえと三重県が協働し、三重県産の農産物が消費者の安全安心志向に応えるための仕組みとして、平成14年11月に構築しました。この制度は、三重県内の生産者が環境に配慮した生産方法や食の安全・安心を確保する生産管理の実施にとりくみ、その生産履歴を積極的に公開することにより消費者が安心して購入できるようにするものです。現在、米、野菜、果物、きのこ、鶏卵が認定対象品目となっています。

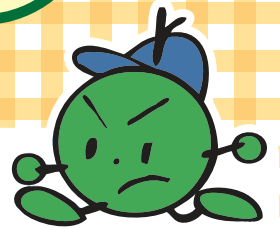
詳細は、みえの安心食材表示制度 (<http://www.mie-ansinsyokuzai.org/about.html>)

がんばっています!



こどもエコクラブ

～三重県のこどもエコクラブ活動紹介～



ゆきさやクラブ (鈴鹿市)

・会員数2名 ・サポーター数1人 ・クラブの構成 家族 ・代表サポーターの中浜さんに聞きました。

いつどのようにできたのですか?

私達は2年前から活動をはじめた家族クラブです。エコクラブの存在をはじめて知ったのは4年前に開かれた「こどもエコクラブ全国フェスティバルinかめやま」です。その後おもしろそうだと興味を持ち入会しました。はじめはエコロジーというよりはエコノミーの精神ではじめたエコです。家庭の中で当たり前のように使われている電気やガスなどが全て地球からの恵みであることを認識し感謝しながら日々生活していくことを目標としています。



オリジナルごみ箱で楽しみながらゴミの分別をしています!



田植え体験を通じて、農業の面白さや大変さを実感できました。

どのような活動をしていますか?

①子ども達が所属している総合型地域スポーツクラブで行っている「アフリカの田んぼ」での田植えや稲刈り・海岸清掃・花壇清掃などへの参加②鈴鹿市が毎年6月1日に行っているクリーンシティへの参加③環境学習情報センターで行われる講座への参加④プランターでできるmini自給自足⑤ゴミの分別(オリジナルごみ箱で分別の意識付け)⑥「myはし」や「エコバッグ」「水筒」などを持ち歩く⑦家での簡単な省エネ対策など、全て家庭や家の回りのできる簡単なことばかりです。

どのようなことを子どもに伝えたいですか?

最近、地球温暖化やCO₂削減など環境に関する内容が、テレビ・新聞・マスコミなどを賑わすようになってきました。温暖化はCO₂が増えすぎたせいかもしれないといわれています。しかし、私達が、家庭でいくら頑張っても省エネしたとしても削減できるCO₂の量はほんのひと握りもないでしょう…。ですが、気持ちの問題として、毎日こまめに省エネすることで、地球から命を与えられていることを肌を感じ生活していけると考えます。

地球からの恵みを当たり前のもので使うのではなく、心から感謝し、大切に使うべきことをたくさんの子供達に知って欲しいと思います。できるなら、子ども達も、そして大人も地球に対してもっと謙虚な心で関わるべきなのではないかと思ひます。



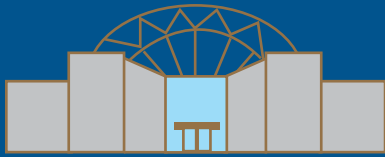
ゆきさやクラブは、こどもエコクラブ全国フェスティバルに三重県代表として参加します。

こどもエコクラブとは

幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。こども達の興味や関心に基づいて、身近な地域の中でできる活動に自由に取り組みます。仲間が集まればどんなグループでも「こどもエコクラブ」として登録して活動を始めることができます。入会費・登録費は無料 ※詳しくは環境学習情報センターまで



イメージキャラクター「エコまる」



センターNEWS

エコカフェがオープンしました。

センターご来館のみなさまへのお茶・コーヒー・紅茶のサービススペースをご用意しました。エコ談義に花を咲かせながらホッと一息…していただけるリラックス・スペースにしたいなあ、と考えています。これからも、みなさまに気軽に足を運んでいただけるようなセンター作りをしてまいりますので、どうぞよろしくお祈りします。



手作りの
万古焼きで
ほっこり♪



はみだしNEWS:メルマガ登録者をE-mailで募集中。氏名(ふりがな)、mailアドレス、郵便番号、住所、電話番号を明記し、info@eco-mie.comまで送信してください。

環境活動の
PRができる!

今月の企画展示 12~2月

9月以降
今月の企画展示
出展募集!
環境学習情報センター / 三浦まで



12月 三重中央開発株式会社

「三重中央開発株式会社」は「廃棄物を資源としてとらえ社会へ還す」という視点に早くから着目。積極的にリサイクル製品の技術開発を進めてきました。

一般廃棄物のプラスチックが新しく生まれ変わる資源の行程をわかりやすく、パネルにして展示していただきました。「これがこれになるの?」と驚きの声が聞こえてきそうでした。

一緒に「タングラムパズル(パズルゲーム)」も置いてもらいましたが、これも、もとはプラスチックごみです。この展示から「ごみだけど…ごみじゃないんだ」ということがわかり、リサイクル技術の進歩に驚かされました。



1月 北星高等学校通信制 20学年Dクラス

平成20年7月7日~9日まで「G8北海道洞爺湖サミット」が開かれましたが、「三重県立北星高等学校通信制20学年Dクラス」は、その時の「キッズサミット宣言」に参加しました。

エコ活動のレポート参加ですが、全国の小・中・高のクラスの中から三重県立北星高等学校が優秀賞を受賞されました。「太陽と水と緑のプロジェクト」とした活動内容は、

- ①学校屋上に設置された太陽光パネルの電気料のCO₂削減量の記録
 - ②雨水タンク活用状況の記録
 - ③緑のカーテン(ゴーヤ)の記録
- です。展示ではこの取組をパネルにしたもの・雨水タンクのミニチュアなどを置いてもらいました。



2月 財団法人 鈴鹿国際交流協会

鈴鹿市の外国人登録者数は一万人を超えています。それは、三重県在住の1/5にあたります。そんな中で鈴鹿国際交流協会は鈴鹿市民の国際意識の高揚と諸外国との相互理解を深めることを目的に活動しています。

去年の8月17日の「夏の鈴鹿川体験」・9月14日「KIDS交流会」では、国は違ってもところはひとつになって、エコについて考え、その思いを「地球へのメッセージ」としてパネルにまとめました。それぞれ自分の国の母国語で伝えています。

これを見ると「地球はひとつ・世界はひとつ」って思いが強くなります。わかった人からはじめ、わかったことなら伝えることができる…地球上にそんな人が多くつながっていけば嬉しいですね。



ようこそ!&訪問しました 12~2月

三重県環境学習情報センターでは社会見学・環境学習体験教室の受入を行っています。

環境学習情報センターに来館してくれた小・中学校			環境学習情報センターが訪問した小・中学校		
市町	四日市	富洲原中学校(1年生)	津	片田小学校(6年生)、安東小学校(5年生)、藤水小学校(3年生)、高茶屋小学校あすなろ分校(1~6年生)	
	いなべ	山郷小学校(5年生)		鈴鹿	清和小学校(5年生)
市町			鳥羽	答志中学校(1~3年生)	
			志摩	立神小学校(4年生)	

環境学習情報センターの講座情報 講座NEWS

講座内容は、都合により変更になる場合があります。

PICK UP 環境リーダーを養成する講座がお近くで開催できます。

学校の先生の場合

地域NPOの場合

自治体の場合

2～3時間の研修にご利用ください。

メンバーのレベルアップにご利用ください。

市町での環境活動を増やすきっかけ作りにご利用ください。

主催講座を出前講座としても実施できます。詳しくはお電話下さい。

平成21年度 講座・イベント予定

講座・イベント名	開催時期	講座・イベント名	開催時期
県民の日 イベント	4月18日	環境講座～基礎編～	7～8月
プロジェクト・ワイルド エドゥケーター養成講習会	5月2日	PLT指導者養成セミナー	7、8、10月
インタープリター養成講座	5～6月、秋頃	Mie子どもエコフェア イベント	7月18、19日
水生生物調査リーダー養成講座	5月31日	夏休み子ども環境講座	8月に8回
指導者養成スキルアップ講座	年間8回程度	子ども環境講座	9月以降
ヒノマイトンの環境セミナー 観察会	5月、22年2月 7月	環境学習リーダー養成講座	12月、22年1月

環境学習情報センターへの
来館、出前講座などで使える

環境講座

学校の授業、市民団体の学習会、公民館の講座、企業の環境学習にお役立て下さい。各講座ともセンターでの開催、各地に出前での開催が可能です。講座内容につきましては、ご希望に合わせ相談させていただきます。お気軽にご連絡ください。

※原則として、希望日の1か月前までにご連絡ください。出前講座については使用する消耗品のご準備をお願いしています。

講座の例	内容	対象
水質チェック教室	バックテストで水のCODを調べます。	小学校中学年以上
大気調査教室	簡易測定カプセルで採集した二酸化窒素の量を調べます。	小学校高学年以上
自然体験教室	自然観察、バードウォッチング、水生生物調査など。	小学校中学年以上
ごみ・リサイクル講座	家庭でできるごみゼロ、3Rなどについてお話しします。	小学生以上
買い物ゲーム	模擬的な買い物を通じて、ごみを減らす方法を考えます。	小学校中学年以上
風呂敷活用講座	ごみを減らす方法として風呂敷の活用を考えます。	小学校高学年以上
環境を考える消費者講座	グリーン購入を通じた環境への取り組みを考えます。	小学校高学年以上
エコソング「うたおう&おどろう」	地球温暖化防止やリサイクルについて歌と踊りで学びます。	幼児・小学校低学年
地球温暖化防止と省エネルギー講座	地球温暖化防止と資源枯渇の問題から、省エネルギーの実践を考えます。	小学校高学年以上

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11(地番変更しました。郵便はこちらまで)

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com
開館日	1月4日～12月28日まで (12月29日～1月3日まで休館)
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料 ※お気軽にお越し下さい

